

～東日本大震災から1年～

被災した子どもへの支援をめぐる 社会的養護の現状と課題

日時 2012年6月17日(日)
13:00～16:30 (開場12:30)

参加費 無料

申込 当日、現地申込

会場 星陵会館 東京都千代田区永田町2-16-2
☎03(3581)5650

(託児を希望される方は、6月8日までに「下記問合せ・託児申込先」にご連絡ください。)

東日本大震災により、多くの子どもが被災し、親を亡くした子どもたちが親族などのもとで生活を始めてから1年以上が経過しました。この間、原発事故による被害もあり、子どもへの様々な支援のニーズや課題が明らかになっています。

それに対して、子どもたちの心のケアを担う医療や受け皿となるべき児童福祉施設・里親や児童相談所等の社会的養護制度が、十分な支援をなし得ているのかを検証し、被災した子どもの支援のために何が求められているのかを考えていく必要があります。

また、被災による環境の変化やストレスから、子ども虐待の発生が強く心配されているため、子ども虐待の発生予防や早期発見につなげていくという視点も重要になってきます。

今回のシンポジウムでは、これからの息の長い広範な支援のあり方を皆さんとともに考える機会にしたいと考えております。関係する分野の方はもちろん、広く市民の皆さんのご参加をお待ちしております。



第二回オランヂリボン公式ポスターコンテスト最優秀賞作品
(北海道 多羽田勝さんの作品)

プログラム

基調講演 東日本大震災と子どもの被災状況及び支援をめぐる課題
本間 博彰氏 (宮城県子ども総合センター所長・児童精神科医)

シンポジウム

テーマ ～東日本大震災から1年～

被災した子どもへの支援をめぐる社会的養護の現状と課題

●シンポジスト(アイウエオ順・敬称略)

小宮 純一 (フリージャーナリスト)

「震災下の子どもと保護者～東北3県取材から～」

鈴木 崇之 (東洋大学准教授、会津大学短期大学部非常勤講師)

「地震・津波・放射能汚染の三重苦の中から～福島県における社会的養護の被災直後の対応状況と現状そして課題～」

卜蔵 康行 (宮城県里親連合会会長)

「親族里親支援を通して見える子ども支援の現状と課題」

中野幸二郎 (岩手県宮古児童相談所長)

「岩手の子どもたちは今・・・」

●コーディネーター **椎名 篤子** (児童虐待防止全国ネットワーク副理事長)

主催 特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク
財団法人 こども未来財団

後援(予定を含む)

内閣府、文部科学省、厚生労働省、日本子ども虐待防止学会、公益財団法人SBI子ども希望財団、読売新聞社、東京都、全国社会福祉協議会(全国児童養護施設協議会、全国乳児福祉協議会、全国母子生活支援施設協議会)、全国自立援助ホーム協議会、財団法人全国里親会

案内図



駐車場がありませんので自家用車のご来館はご遠慮ください。

東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線	永田町駅	6番出口	徒歩3分
東京メトロ千代田線	国会議事堂前駅	5番出口	徒歩3分
東京メトロ南北線	溜池山王駅	5番出口	徒歩5分
東京メトロ銀座線、丸の内線	赤坂見附駅	11番出口	徒歩7分

星陵会館

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-16-2
TEL 03(3581)5650 FAX 03(3581)1960

問合せ・
託児申込先

特定非営利活動法人

児童虐待防止全国ネットワーク

電話 03(6380)6380

ホームページ <http://www.orangeribbon.jp>

メール info@orangeribbon.jp